

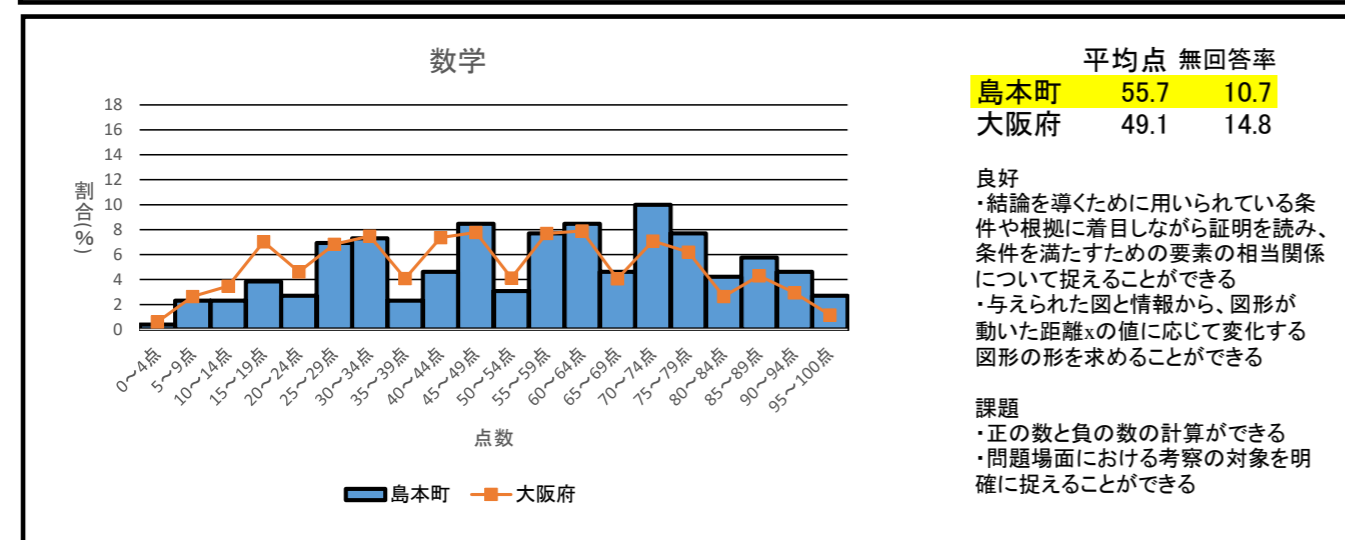
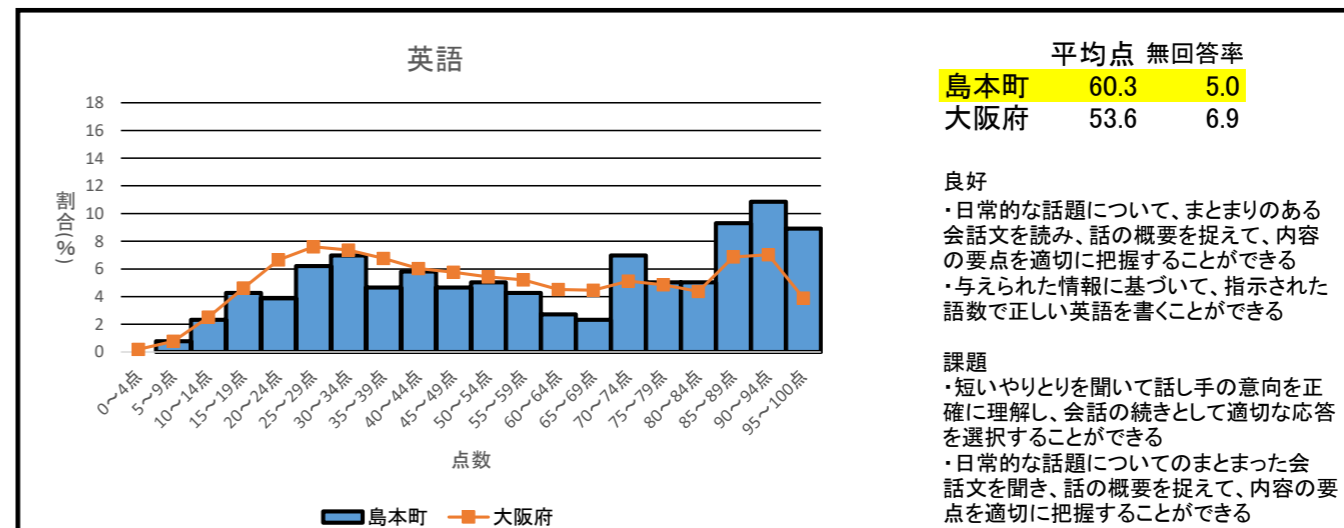
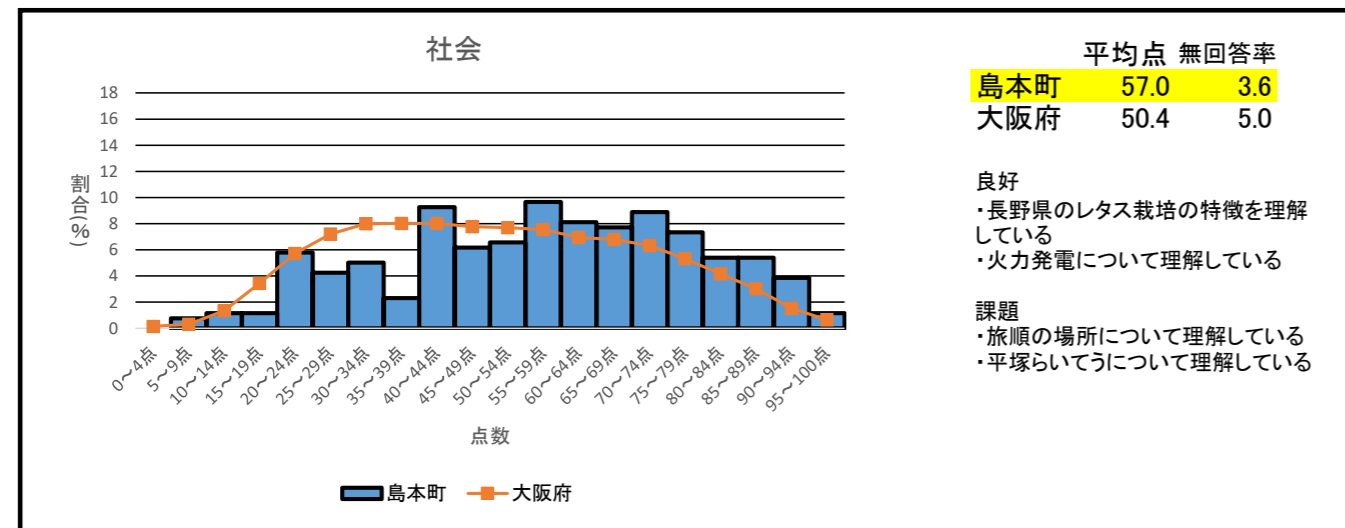
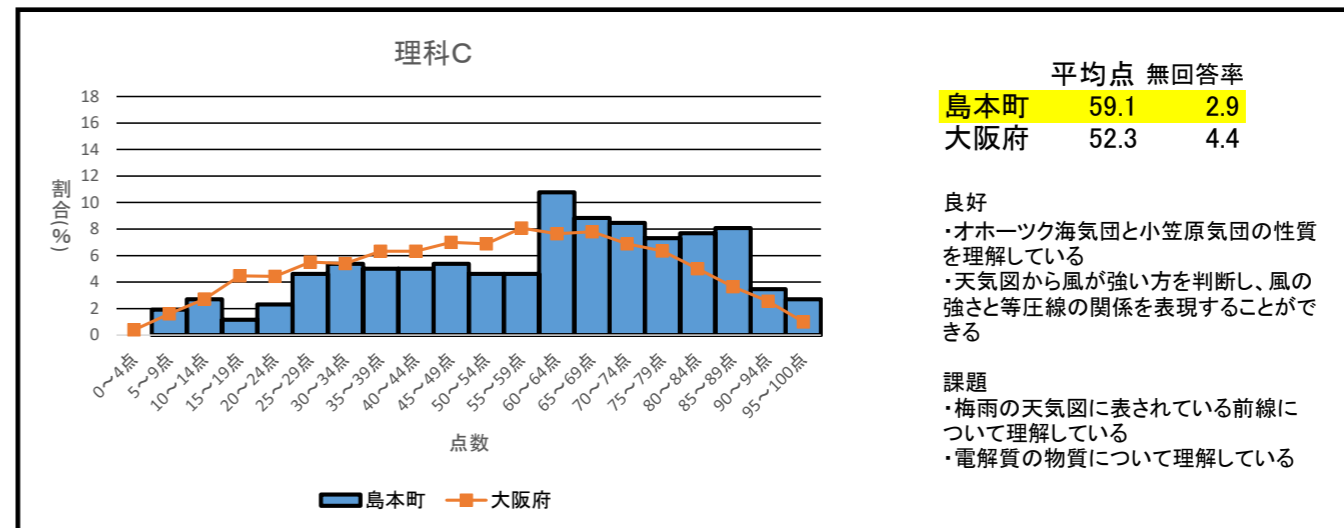
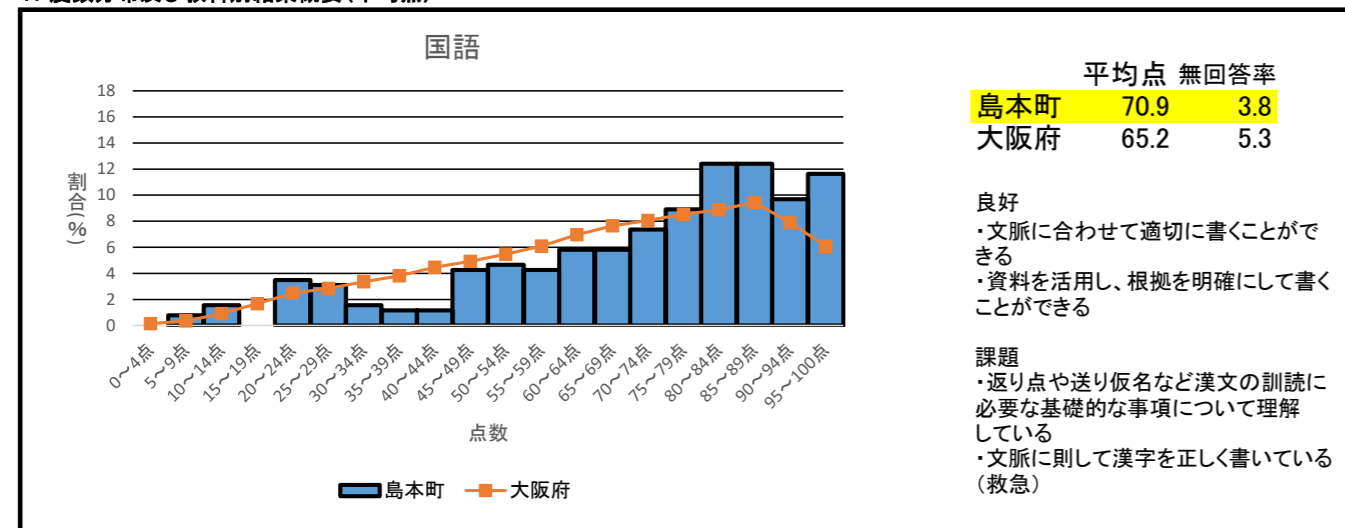
令和6年度大阪府中学生チャレンジテスト 中学3年生 結果概要

教育推進課

実施日時: 令和6年9月3日(火)
対象・内容: 第3学年(国語・社会・数学・理科・英語、各教科アンケート)
※理科はC問題を選択

実施校数: 2校(府内473校)
実施生徒数: 260人(府内58, 254人)

1. 度数分布及び教科別結果概要(平均点)



<結果概要>

国語: 問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における、「言語の特徴や使い方に関する事項」で大阪府平均との開きが小さくなった。

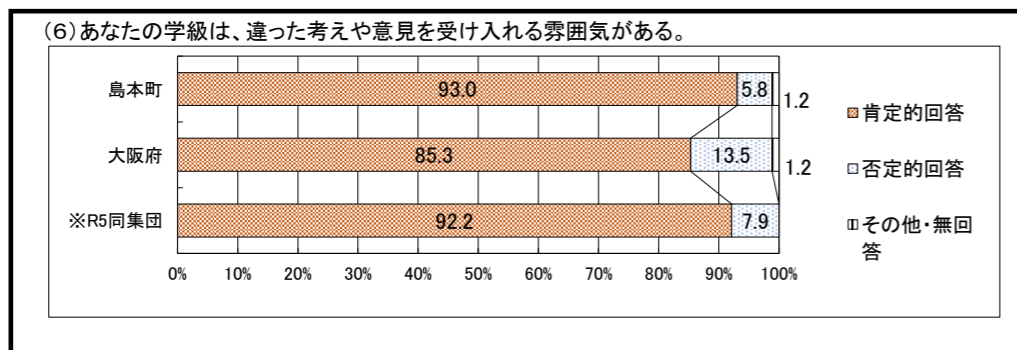
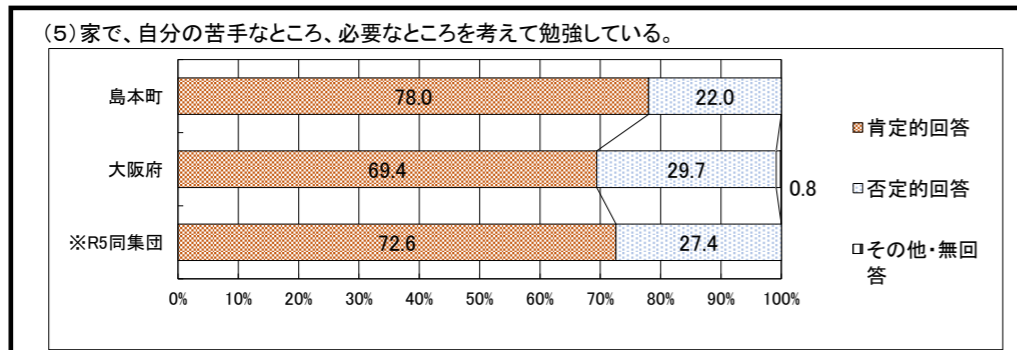
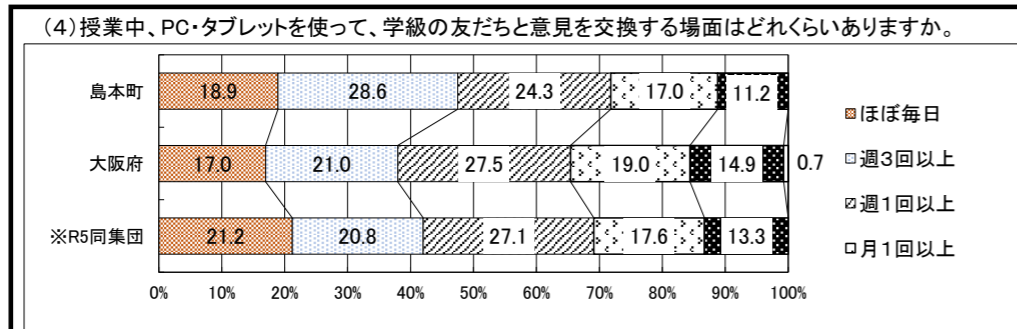
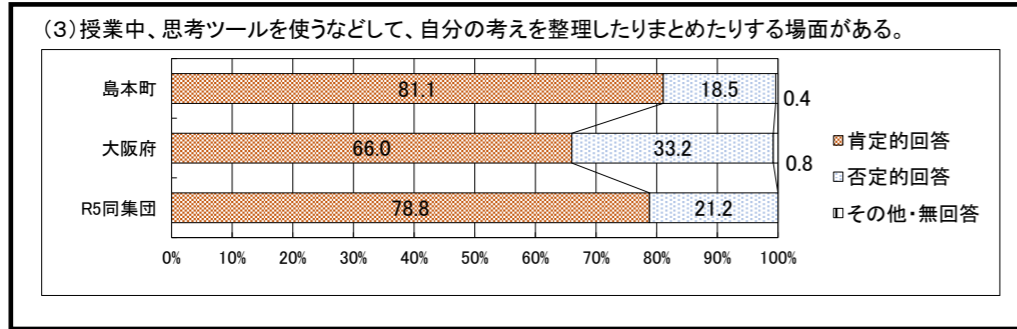
社会: 地理的分野と比較し、歴史的分野において大阪府平均との開きが小さかった。また、思考・判断・表現の観点でも大阪府平均との開きが小さくなった。

数学: どの問題形式でも大阪府平均を上回る結果であるが、特に記述式の問題で得点率が高かった。一方、数と式の領域で、特に大阪府平均との開きが小さくなった。

理科(本町はC問題): 全ての問題形式で大阪府平均を上回っており、特に思考・判断・表現の観点で得点率が高かったが、「粒子」領域の問いについて、大阪府平均との開きが小さくなった。

英語: いずれの領域でも大阪府平均を上回ったが、聞くことの領域で、大阪府平均との開きが小さくなった。

2. アンケート(抜粋)



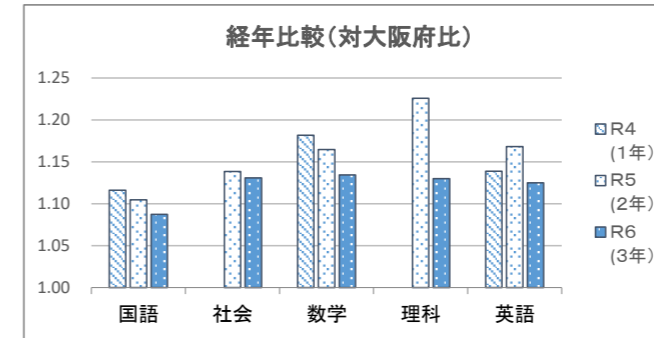
<アンケート結果について>

○(3)は昨年度と比較して肯定的回答割合が2.3ポイント向上した。学力向上担当者会等で、思考ツールそのものや、生徒が根拠を元に立論し、話し合う活動を推進した結果であると分析できる。(6)についても、昨年度や令和4年度の類似設問と比較して、肯定的回答割合が増加し続けている。自分が他者に受容されている安心感こそ、教室での教育活動において必要不可欠なものである。特別の教科道徳を中心に、生徒が安心できる学習環境の確保について、引き続き留意していく必要がある。

●一方で、(4)は「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合が、昨年度と比較すると2.3ポイント減少した。ICT機器の使用は充実した学習を実現するための手段であり、目的ではないが、その有用性を教員及び生徒自身が理解したうえで適宜適切に使用場面を設定していくことが重要である。来年度の端末更新を見据え、今までの好事例収集及び共有を各中学校に指示していく必要がある。

3. 同一集団における教科別の3か年の推移(1年次は国・数・英のみ)

	国語	社会	数学	理科	英語
R4 (1年)	1.116		1.182		1.139
R5 (2年)	1.105	1.138	1.165	1.226	1.168
R6 (3年)	1.087	1.131	1.134	1.130	1.125



4. 教科アンケート 同一集団における類似質問への肯定的回答状況 質問事項 経年比較

- ①授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。
※令和4年度までは『授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。』
- ②家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。
※令和4年度までは『自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。』
- ③あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。
※令和4年度までは『授業中、間違っても笑われない。』

	①	②	③
R4 (1年)	93.3	63.3	86.0
R5 (2年)	78.8	72.6	92.2
R6 (3年)	81.1	78.0	93.0

